

視察会の中で、合同勉強会を開催しました

若手の会とNBミーティングの組織間連携強化や、立場が異なる中での意見をそれぞれの検討に活かす事を目的として、先進地視察会の中で若手の会・NBミーティング合同勉強会を開催しました。

【講師】 国土交通省中部地方整備局建政部公園調整官 笠間 三生 氏

【テーマ】 国営木曽三川公園事業について

【概要（ポイントのみ）】

- ・公園については大きく「応接間としての公園」、「リビングとしての公園」の2タイプに分かれる。（「応接間としての公園」は、外国や国内からの観光客等をおもてなしする公園。「リビングとしての公園」は、地域の人達や誰もが訪れて楽しめる公園。）
- ・国営ひたち海浜公園（茨城県）では、公園の方向性を「リビング」から「応接間」に転換し、他では見ることでできない景色をつくるよう意識した事で、現在年間200万人の来園者となっている。
- ・国の維持管理費だけで立派なものではない。整備時点からボランティアと連携する事により様々な取組みが実施できる。
- ・人が集まる公園を作るためには、整備してからでは難しく、利用者の事を意識して公園を検討していく必要がある。
- ・公園の活用方法については、市民など管理者側でない所にボールを持たせて、最初から計画に組み込んでいく事が良いと考える。



合同勉強会のようす

視察会参加者からの感想（一部抜粋）

【大規模公園に関する内容】

- ・先に公園の計画図を作成するのではなく、利用者の目的を聞いてから作成する方がスムーズに進むと感じた。「目的に合わせた公園づくり」が重要である。
- ・まず地権者としてのスタンスを明確にし、その上で何をしたいのかははっきりさせる必要がある。
- ・ネットワーク型の公園が「つながる」効果について、理想論でも良いので今後検討したい。

【組織づくりに関する内容】

- ・地域住民や会員などの仲間づくりが大切で、学生や大学などと協力して輪を広げていく事で市民に熱意を感じてもらう事が重要である。
- ・「大学は大事」という説明が印象に残っている。大学では毎年新しい人が入ってくる。我々（若手の会やNBミーティング）と大学、お互いが利用し合える関係づくりが最初の課題と考える。
- ・できる事からまずやる、できない事は願います。持続が大切である。
- ・参考になったのは「アジト」となる活動拠点が、各々のNPO法人に存在する事である。また、毎年同じ時期に同じイベントや講習会が開催されているため、市民に認知してもらいやすい事も参考になった。
- ・子どもが遊べる公園には親がついてくるので、必然的に家族で公園を利用する事になる。また、子どもだけが利用したとしても、親がその存在を知る事になるので、アクションを起こすには子ども達と行うイベントが良いと考える。

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号

電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。



ふるさと

vol.46

2018
January
1月 発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

字別意見交換会を開催致します

地主の皆様を対象に、昨年に引き続き下記日程及び内容で「字別意見交換会」を開催致します。

字別意見交換会では、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」から会の活動紹介と平成29年度の活動概要、大規模公園に関する若手の会の考えを紹介後、意見交換を行います。また、普天間飛行場跡地利用計画の策定状況についてのご報告（プロモーションビデオの放映）を致します。

開催日	時 間	会 場
2/10（土）	午後6時～7時30分	宜野湾市社会福祉センター（赤道）
2/11（日）	午後2時～3時30分	宜野湾市社会福祉センター（赤道）
2/17（土）	午後6時～7時30分	宜野湾マリン支援センター（大山）

◆字別意見交換会の内容

(1) 普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告

1) 若手の会の活動紹介と平成29年度の活動概要

2) 若手の会の考える大規模公園のあり方

(2) 質疑応答、意見交換

(3) 普天間飛行場跡地利用計画について
プロモーションビデオの放映(平成28年度)



昨年度の字別意見交換会のようす
(於：農協会館)

※どの開催日でも内容は同じですので、皆様のご都合の良い日に合わせてお気軽にご参加下さい。

「若手の会」の参加者を募集しています！

「若手の会」は、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた地権者の検討組織として活発に活動しており、毎月1回定期的に会合を開催しています。（毎月第2火曜日の午後7時30分より宜野湾市役所にて）地権者や地権者のご家族であればどなたでも「若手の会」のメンバーとすることができます。

本会の活動に興味・関心のある方は、宜野湾市まち未来課までご連絡下さい。

普天間飛行場の跡地利用に向けて先進地視察を実施しました

若手の会と「ねたてのまちベースミーティング（市民側から跡地利用を考える組織。以下、NBミーティング）」は、まちづくりの先進情報の収集・蓄積と、跡地利用に関する議論の深化などを目的として、先進地視察を実施しています。

今年度は、「多様な拠点（テーマ）のある国営公園」と「活発なまちづくり活動団体」の2つをテーマとして、愛知県と滋賀県を訪れました。

【日程】

平成 29 年 10 月 26 日（木）～ 28 日（土）

【視察テーマ及び視察先】

◆多様な拠点（テーマ）のある国営公園

視察先：国営木曾三川公園（愛知県、岐阜県、三重県）

◆活発なまちづくり活動団体

視察先：NPO法人なごや東山の森づくりの会（愛知県）

NPO法人彦根景観フォーラム（滋賀県）

NPO法人なごや東山の森づくりの会（愛知県）

【特徴】

名古屋市と協働で「なごや東山の森づくり基本構想」を策定し、毎月定例的に多様な取組みを行政、企業や市民等と活発に行っている組織です。



座学のような様子



東山公園のような様子

【組織の概要】

- ・名古屋市内に位置する東山公園、平和公園で里地里山保全の管理活動を行っている組織で、平成 27 年に NPO 法人格を取得しています。
- ・昭和 50 年代から自然調査活動や観察会等、市民が主体となって様々な取組みを行い、行政と協働で「なごや東山の森づくり基本構想」を策定しています。
- ・事業活動は班・部で構成され、会員数は現在約 170 人です。毎月定例の森づくり活動に加え、各班・部での自主活動も行っています。

【視察で学んだ事】

- ・組織としての継続した活動、活動成果の発信の重要性を改めて学ぶ事ができました。また、継続した活動を行うために必要な体制のあり方や、現在組織が抱える課題等、若手の会や NB ミーティングの今後の活動にも密接に関係する話について、色々とう事ができました。

国営木曾三川公園（愛知県、岐阜県、三重県）

【特徴】

3 県（愛知県、岐阜県、三重県）にまたがる日本一大きな国営公園で、河川沿いの拠点それぞれについて設定されたテーマに基づき整備された、多様な顔を持つ公園です。



国営木曾三川公園のようす

【概要】

- ・木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川のオープンスペースとその周辺の自然を活用して整備された国営公園で、約 6,100ha の計画面積の内、現在約 287.7ha が開園しています。
- ・地域の歴史文化に関する学習プログラム（公園ガイドボランティア会による学習支援）や、国営・県営・県の水産研究所、高速道路ハイウェイオアシスから成る複合公園（年間 400 万人が来園）など、多様な公園利用のあり方がなされています。
- ・また、公園の整備計画段階から市民団体との協働の取組みを継続して実施している拠点では、年々来園者が増加しており、平成 19 年度（初年度）は 20 万人でしたが現在では 100 万人を超えています。

【視察で学んだ事】

- ・訪れた拠点の内、複合公園部分について、国営部分は環境教育に関する各種プログラムを実施し、県営部分は商業施設を設けるなど、多様な公園の使い方を学ぶ事ができました。
- ・市民団体と協働で各種イベントを継続的に実施し、来園者が年々増加している事から、協働による計画づくりの重要性を学ぶ事ができました。

NPO法人彦根景観フォーラム（滋賀県）

【特徴】

大学との連携を始めとし、多様な団体とタイアップしながらまち並み保全のための取組みを行っている組織です。



彦根のまち並み

【組織の概要】

- ・彦根城下町のまち並み景観を市民で考え、守り、育て、活用していこうという考えの下、発足した組織です。
- ・大学の研究室が組織の出発点でもある事から、現在も大学や各種団体等との連携が継続してなされています。

【視察で学んだ事】

- ・大学や各種団体等と密接に連携して活動する事で得られる効果とその重要性について、学ぶ事ができました。
- ・会員を増員していくための工夫について話を伺う事ができ、若手の会や NB ミーティングにおける今後の活動の参考となりました。